

# サッカー：オスグッド病予防のための調査と動作解析

オスグッド病は運動量の多い成長期の男子、特にサッカー選手で多く発症します。

## 市内少年サッカーチーム 約60名の2年間の追跡調査

3か月ごとの身体機能検査

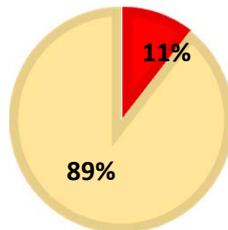
身体のかたさ/筋力/姿勢など



エコー検査

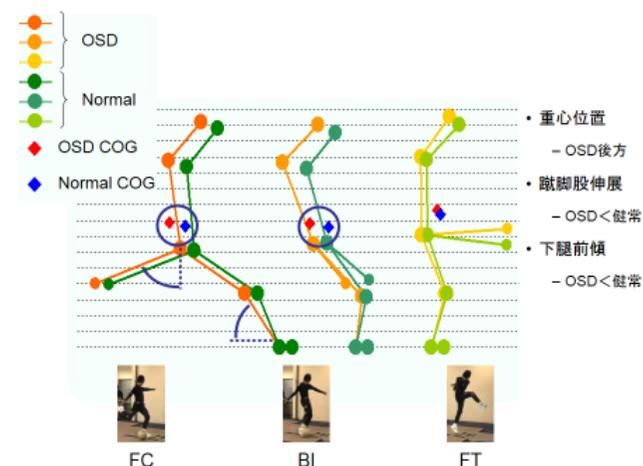


発生率



## キック動作の分析

(オスグッド病とそうでない人の動作比較)



## わかったこと

- 早期発見し、骨をエコーを用いて観察すると重症化を防ぐ事ができる
- 体をひねる柔軟性や、股関節の柔軟性、足を開く方向の柔軟性が低下すると発症しやすい
- 踏み込み時に脛の前傾が低下し、体重の前方移動がスムーズでないと発症しやすい

学会発表  
論文投稿

「成長期サッカー選手における脛骨粗面の超音波所見と臨床所見との関係」日本整形外科スポーツ医学会学術集会,2007

「小学生サッカー選手のキック動作分析-経験年数による比較-」日本体力医学会大会,2011

「小学生サッカー選手におけるOsgood-Schlatter病発症の発症要因に関する前向き研究-キック動作の検討-」日本臨床スポーツ医学会学術集会,2012

「小学生サッカー選手における脛骨粗面のエコー所見と臨床所見の経過について」日本整形外科スポーツ医学会学術集会,2014

「小学生サッカー選手におけるOsgood-Schlatter病発症の身体的要因に関する研究」体力科学,2016